

諫早市教育委員会議事録
令和6年第6回（5月定例）

令和 6 年第 6 回（5 月定例）教育委員会

- 1 日 時 令和 6 年 5 月 2 9 日（水）
1 6 時 0 0 分～1 7 時 0 0 分
- 2 場 所 諫早市役所 7 階 会議室 7－1
- 3 出席者 教育長 石部 邦昭
委 員 原田 裕介
委 員 山口 秀雄
委 員 中野 高子
委 員 小野 靖彦
- 4 会議に出席した事務職員
教育次長 石橋 芳秋
教育総務課長 新野 純子
学校教育課長 田上 顕二
生涯学習課長 竹島 健吾
- 5 議題
報告第 7 号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委
嘱について）
議案第 8 号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について
議案第 9 号 諫早市少年センター運営協議会委員の委嘱につい
て
議案第 1 0 号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて

1 6 時 0 0 分開会

議事録署名人の指名

山口委員と中野委員を議事録署名人に指名

議事の非公開

報告第7号、議案第8号及び議案第9号については人事案件であるため非公開

議事録の承認

令和6年第5回（4月定例）教育委員会の議事録について
質問・意見なし
原案どおり可決

教育長の報告の要旨

《教育長の報告》

1 番目。今現在の教育の課題と解決に向けた取り組み。「一つ一つ努力してまいります」ということで、今、学校教育において何が問題になっているのかを挙げている。そのほとんどは、昨日の研修会で話がされた。私が問題であると思っていることが、各市町教育長および県の悩み、問題点でもあるということを、研修会の話し合いで確信したところである。

まず、豊かな人間教育。これがまず大事であり、子供たちの心を耕すことになるので、ただ道德教育とかそういう場面設定のところだけではなく、普段の行事や学級活動、校外学習等も含めて日常的に子供の心を耕す工夫をしなければいけない。そして、褒める教育の推進としては、人間は褒められると努力をする。叱られるとなか

なか立ち直るのが難しかったり、努力をやめてしまったりする。もちろん厳しい指導というのも必要で、割合としては7割ぐらい褒めながら、3割ぐらいは厳しくすれば良いのではないだろうか。

それから、学校における多様性教育が一番言われているけれども、留学生がいろいろな国から来ているし、外国人労働者もたくさんいるので、そういう人たちと共生していくという社会になっている。しかし、一方では伝統的な差別意識というのものもある。だから、人間には平等・公平・公正で、みんな仲良くと思いながら、どこか頭の隅には差別意識があるということは、非常に面倒な問題だというふうに感じる。それが全くない社会にしていく必要があるのではないかと思う。

学力充実について。昨日の市町教育長会議の分科会で熱く語られた。主体的、対話的で深い学びの実践、個別最適な学びと協働的な学びを、全ての学校で実践するということだが、学習指導要領が改訂されて5年になる。当然、それに沿った授業をしなければいけないが、中には前の指導要領のままの授業をしている人もいて、学校教育課の指導主事に、今の学習指導要領を学校に浸透させるよう指示しているところである。なお、豊かな人間教育や学校における多様性教育、学力充実というのは全部結びついている。従って、勉強だけすればいいというものではなく、しつけ教育、心の教育をしながら勉強をする。勉強をするということは、心を耕すことにもなるので、密接にリンクしている。

昨日の市町教育委員会研修会のテーマにもあったが、いじめや不登校、子供の自殺などは、全国的に非常に大きな問題と捉えられており、子供の居場所作りが大事ではないかということである。私は、フリースクールなどいろいろな外部の居場所もいいのだが、できれば学校で教室に入れないのであれば、どこか別の教室を居場所として子供たちが考えてくれないかなという思いがある。

1人1台端末の有効活用であるが、デジタル教科書の活用も含めて家庭での利活用というのは、まだまだ浸透していない。県全体でも同様であり、長崎県の学力が低いと言われるのは、家庭学習が学力の高い県に比べると足りていないと言われている。

また、ネクストギガをどう見据えるのかということがある。今、全部に行き渡っていて、今度は買い替えの時期を迎えるので、どう対応していくのかということである。他の自治体では新しい端末が導入されているところもあるようで、長崎県全体で考えられているところである。今後説明会が行われるようだ。

特別支援学級および通級指導教室の充実ということだが、今、学

校訪問をしているけれども、特別支援学級にはいろいろな特性がある子供たちがいることを痛感している。年々増えており、ニーズに応じた質の高い教育、連続性のある多様な学びが重要なので、小学校で終わりとかいうのではなく、小学校から中学校、中学校からまた次へと連続性のある学びの場を提供しなければいけないと思っている。

次に、休日の部活動の地域移行についてであるが、令和7年度末移行に向けて準備を今進めている。諫早市は、教育拠点校方式ということで、どこか学校を決めてそこに集めて指導をするよう考えていて、8月に説明会を開催する。説明会の対象者は、小・中学校の校長、教職員、保護者、スポーツの指導者、スポーツ協会や競技団体の関係者などで、今、県内で一番進んでいると言われている長与町の教育長と、県の体育保健課の部活動地域移行推進リーダーのお二人も講師として呼んでいる。「発信が遅い」とか「どうなっているのか」とか言われているようなので、そこで諫早市が行っている取組についても説明したいと思う。

教員の働き方改革については、特に教頭先生に焦点を絞って、教頭先生の授業削減をしたり、業務の役割を見直したりする時期に来ているのではないかということで、朝一番早くに来て一番遅くに帰ると言われているので、そういったところから改革していかなければいけない。

それから、コミュニティスクールの拡充であるが、学校だけでは解決が難しいような問題が起きている。だから、子供を真ん中にしてPTA、地域、学校、教職員、教育委員会がスクラムを組み、固い絆でやらなければ問題は解決しないと考えており、コミュニティスクールはその起爆剤になると踏んでいる。4月の校長会において、全部の学校でコミュニティスクールを導入することを考えてもらうよう話をした。最終的にどうなるかわからないが、県によると、県全体では25%の導入にとどまっている。県は、これを令和10年までに50%にしたいという目標を持っている。

次に、教員不足、なり手不足である。教員採用試験が前倒しされ、今年は6月16日に九州統一の試験を行う。例年7月20日ぐらいに行っていたので1ヶ月の前倒しになる。九州全部で統一されている。2次試験は8月21日、9月2日で、これも大分早い。要するに、教員採用試験の時期が遅かったがために、他の民間企業に先に内定し、教員にならないという人もいるということで、試験の時期を早くして、志願者を増やす戦略である。

その背景の1つに、小学校の採用倍率が1.4倍、1.3倍、今

年は1.2倍と年々低下している。私も20年ぐらい前に教員採用試験の担当をしていたことがあるが、その時は小学校で20人の採用に800人ぐらいが受験し、倍率が40倍になることもあり、教員には誰もかれもがなれなかった。現在、県では、長崎大学の教育学部に進学しても教員にならない人がいたり、他県から来ている学生は地元に戻ってしまったりするので、教員になってもらうよう、また、長崎に残ってもらうように、長崎大学での教員採用に力を入れているようである。全国的に教員採用は競争になっているが、特に九州内は競争が激しいので、関東や東北、北海道などの大学に開拓に行ってはどうかという提案も行った。そのくらい力を入れないと難しい。

もう一つ、県教委が考えているのは、できるだけ特別免許状を出すことである。特別免許状というある教科に特化した免許状を出して、教えてもらうというようなことも考えているようで、なり手不足は非常に難しい問題だけれども、いろいろと対策を考えているようだ。

次に、教科書採択について。去年、小学校の教科書採択を行った。今年は中学校になる。4年間使用する教科書を教育委員会で審議し最終決定を行うので、よろしくお願いしたい。教科書の採択は、まず、各学校で教科書を専門的に見ていく調査研究委員会を行う。それと、指名した委員にいろいろな教科書を見比べてもらう選定委員会を行う。そして、学識経験者や保護者代表、学校代表、私も入った採択委員会で教科書を見る。最後に、この教育委員会に諮られるので採択決定をし、県教委に報告となる。

教科書で学力も大分違ってくる。だから、良い教科書を選びきれんかどうかポイントだと思っていて、今の教科書を見るとわかると思うが、カラフルでQRコードも付いているのでタブレットで関連する資料とか演習問題とかを見ることができる。教科書も非常に充実しているなという感じがする。教科書展示は、6月17日から7月18日まで市役所7階と図書館でも展示をしている。

次に、この夏インターハイが諫早でも開催される。全国高等学校総合体育大会北部九州総体と言って、福岡、佐賀、大分、そして長崎で受け持つようになっていて、諫早はウエイトリフティング競技が小野体育館で、ローイング競技が本明川の水上市競技場で行われる。選手だけでも2つの競技合わせて1,700人ぐらい、観客が2万1,000人ぐらいの人が諫早を訪れる。それに役員や補助員なども合わせると2万4,000人ぐらいの規模になるので経済効果が見込まれる。お土産をたくさん買って帰ってほしいと思う。

令和7年度、今度は全国中学校体育大会が沖縄も含め九州全域で開催される。長崎県が担当しているのは、体操競技とバレーボールで、諫早はバレーボールの担当となっている。会場は、諫早中央体育館と小野体育館、森山スポーツ交流館で、決勝はシーハット大村となる。令和7年8月に開催予定である。

5月の行事をかいつまんで話をすると、全国都市教育長協議会長崎大会が開催され、全国から565名が参加された。昨年の北海道の帯広での大会は400人ぐらいだったが、長崎大会は参加者が多かった。全国の教育長たちも先ほど冒頭で言ったように、同じ悩みを持っており、どのように解決していくかという話は非常に勉強になる内容であった。

中学校の体育大会が19日に行われた。また、小学校は26日に28校のうち23校の運動会が行われた。両日とも天気に恵まれ予定通り開催された。

現在、新任校長校の訪問をしている。20日の西諫早小学校から始まって、6月6日の高来西小学校までの7校になる。学校訪問をするといろいろなことがわかり勉強になる。授業改善や学力向上、人間教育等に励んでいただくようお願いしているところである。

市P連の総会及び表彰式が24日に行われた。委員の皆様にもご出席いただき感謝申し上げる。新会長には山口和也氏が就任され、多くの個人や団体が受賞された。

「YOUは何しに諫早へ？」ということで、ALT3名が諫早図書館で25日、諫早についてのいろいろな思いや、子供たちに対する思いを語ってくれた。

第44回菖蒲忌が26日にあった。野呂邦暢文学の朗読であるとか、講演があって非常によかった。

本日、学童傘の贈呈式があり、長崎県央農業協同組合から市内の小学校の1年生に贈呈していただいた。

昨日、県市町村教育委員会連絡協議会研修会が佐世保で開催された。いろいろな提案がなされて勉強になった1日であった。

最後に、「リーダーとは」ということで、京セラの会長であった稲森さんの言葉になるけれども、いい言葉なので校長会や副校長・教頭会でも紹介している。謙虚という美德という話であるが、「どのように優れた能力も、それが生み出した成果も、私に属しながら私のものではない。才能や手柄を私有、独占することなく、それを人様や社会のために使う。つまり、おのれの才を『公』に向けて使うことを第一義とし、『私』のために使うのは第二義とすると。謙虚という美德の本質はそこにある」という言葉で、優れた才能の方

は、社会のため、世の中のために尽くしてくださいということである。そういうことはしないとか、そういう資格はないとか言われる人も時々いるけれども、その才能を世間のために世の中のために使ってもらいたいということで、校長先生、教頭先生になる時の後押しに使わせていただいている。以上が私の報告である。

《教育長の報告に対する質問・意見》

[委員]

教育の課題と解決に向けた取り組みについて3点になるが、まず、多様性の教育というところで、確かに多文化、異文化の子供たちが増えてきていて、そこでの差別意識の排除が大事になる。ただ、多文化、異文化の方がいないところでもインターネットの発達に伴って、同一の考え方しか受け入れないという大人や子供が増えていると思う。ちょうど配付があった資料の中にSNS時代の言葉の守り方についてとても分かりやすく書いてあった。私は、指導員としてそういうことも踏まえて他者を受け入れていくことの大切さを伝えていきたいと思ったところである。

2点目は部活動の地域移行についてで、今の話の中では令和7年度に向けて休日の部活動の移行ということであったが、平日の部活動の移行に関しては、諫早市はどのような方向で考えているのか。

最後に、コミュニティスクールの拡充に関してだが、教育長から県数全体でもまだ25%であるという話を聞いて、とても意外な数字であった。教育長が知っている範囲でかまわないので、なぜ学校支援会議から進まないのかという理由が分かれば教えてもらいたい。

[教育長]

まず、休日の部活動の移行をしてみて、それを踏まえながら平日の部活動も移行していこうという2段階で考えている。全部一度にしてしまうと、いろんな問題もあると思う。だから、まず休日の移行についてはそんなに無理がないのではと考えており、地域の方をお願いしながらできれば、教員の働き方改革にも繋がるものである。

それと、諫早は「学校支援会議」というボランティアで学校を支援するという組織があり、非常に熱心に活動していただいている。しかし、だんだんとそういう人たちが固定化、高齢化してきていて、なかなか次の世代の人が入ってきていない現状があることが悩みであった。しかし、コミュニティスクールでは、そういうところも解決できるのではないかとということで、今取り組んでいるところである。

[生涯学習課長]

コミュニティスクールは学校運営協議会を設置して、地域と学校とで学校の経営方針などを決めて運営していく学校である。地域と学校が相互に連携し、いろいろな取り組みを行う地域学校協働活動において、地域と学校を結びつけるコーディネーターとしての役割の方が非常に大事になってくる。生涯学習課ではそのコーディネーターとなり得る人の発掘や、育成をしていきたいと考えている。

[学校教育課長]

コミュニティスクールは、小・中学校で一緒にしている学校も含めて6つある。現在、複数の学校が来年度を見据えて進めているという状況である。

[委員]

昨日の県の合同研修会で、不登校についての研修を受けたが、その中で、学校では空き教室や保健室、図書室などを利用して不登校の子に登校してもらっている。不登校の子に学校に来てもらうようにということであればいいが、空き教室などを利用する場合に学校自体に行けない子もいる。だから、そういう子のためには「居場所」を考えなければいけないというところで皆さんが悩まれていた。また、登校させることが目的になってしまったらおかしい。これから生きていくその子の人生を考えていくことが大事で、通信教育などもあるし、不登校に関していろいろなことを考えていかないといけないというような意見が多く出ていた。

[委員]

長崎県の方針としていろいろな場所を作るということであり、非常に包括的な今時の考え方である。研修会の協議の中で、フリースクールへの補助金についても話し合いをしたかったけれど時間が足らずできなかったと県の方が言っていた。そのような方向性で進めてもらいたいということを県の担当者をお願いした。

[教育長]

どこかに居場所が必要である。それが学校でなくてもかまわない。

[委員]

県の人が、長崎県でもフリースクールがだんだん増えてきており、月謝が一番高いところで3万5,000円であると言われていた。無料のところもあるけれども、フリースクールを運営するのにボランティアでは続かないだろうし、それなりの経費がかかると思う。何回か話しているが、3年ぐらい前に福岡県がフリースクールへ補助金を出さないことになり、補助金がなくなると運営ができないと福岡市のフリースクールが悲鳴を上げたというような新聞記事も出

ていた。国もおそらくそういう方向を打ち出すのではないかと思っている。

《議題》

議案第10号 全国学力・学習状況調査結果の取扱いについて
学校教育課長 説明
質問・意見なし
可決

《生涯学習課長からの報告》

令和6年度「少年の主張」諫早市大会開催について

《生涯学習課長の報告に対する質問・意見》

質問・意見なし

《非公開議事》

報告第7号 臨時代理の報告について（諫早市少年補導員の委嘱について）

生涯学習課長 説明

削除

了承

議案第8号 諫早市図書館協議会委員の委嘱について

生涯学習課長 説明

削除

原案可決

議案第9号 諫早市少年センター運営協議会委員の委嘱について

生涯学習課長 説明

削除

原案可決

その他

教育総務課長

6月定例教育委員会の日程について説明

17時00分閉会